

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	仙台市大野田たんぼぼホーム		
○保護者評価実施期間	2026年2月9日		2026年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名(36家庭)	(回答者数) 35名
○従業者評価実施期間	2026年2月9日		2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月19日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子で一緒に活動に参加することで、子どもの姿をタイムリーに共有することが出来る	保護者勉強会で子どもへの理解を深める機会を作り、それを基に保護者と一緒に実際の場で子どもの対応について考えている	集団活動の他に個別活動の時間を設け、それぞれの場面の姿を確認している。保護者との会話の中で、具体的な場面を伝えながら子どもの姿を共有していく。
2	・家族それぞれの立場による家族支援を行っている	保護者の相談にタイムリーに対応したり、必要に応じて一時預かりを行い育児軽減を図っている	きょうだい児への支援(活動中の弟妹の預かり、兄姉へのイベント開催など)を行うことで、安心して対象児と向かい合ってもらったり、きょうだい児の過ごし方も保証している
3	保護者同士、交流の場をもつことが出来る	毎日、保護者同士のコーヒータイムを設け、悩み事を相談したりする情報交換の場を設けている。その他にグループワーク(保護者交流会)を年に3回設けて、保護者の交流の場を作ると共に、リフレッシュの場になっている。	1か月に1回、ブレイクという先輩保護者と話をする機会を設けている。先輩保護者に悩み事を相談しアドバイスをもらうことによって、育児へ前向きになれるきっかけになっている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の適正な配置がされなかった	年度途中で病休や退職者などが複数発生し欠員が生じた。	・職員の離職に繋がる前に職員の健康状態(心身共に)に目を配り、面談等で状況確認を行っていく・欠員が生じた場合のスムーズな対応(園内の配置の工夫、法人内での連携)
2	職員のスキルアップを図り定着を目指す人材育成	職員の専門性の向上、支援力の向上	職員の意識づけを行っていくために、園内や法人で研修を企画したり、外部研修への参加を促し、積極的な学びの場を設けていく。受講後は伝達講習を行うなど、全体に生かす方法を実施していきたい。
3	働きやすい環境作り	職員不足の状況が続いたことで一人ひとりの業務負担が多くなったが、その対応が十分に出来なかった	・園内の状況を把握した上で早目に対策を考えて実施のために動いていく ・何でも話せるような雰囲気作りを行い、職員間で積極的に意見交換ができるようにしていく